

論文要旨等報告書

氏 名 合田 加代子
授与した学位 博士
専門分野の名称 博士(保健学)
学位授与番号 甲第 4654 号
学位授与の日付 平成 24 年 9 月 30 日
学位授与の要件 保健学研究科 保健学専攻
(学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目 Current status of and factors associated with social isolation in
the elderly living in a rapidly aging housing estate community
(超高齢戸建て団地における高齢者の社会的孤立の現状とその関連
要因)
論文審査委員 西田 眞壽美、景山 甚郷、谷垣 静子

学位論文内容の要旨

戸建て団地における高齢者の孤立の出現状況及びその関連要因を明らかにし、孤立予防型コミュニティづくりについて検討することを目的に、2007 年と 2010 年に質問紙調査を実施した。孤立の実態は外出頻度と近隣との交流頻度から 4 タイプに分類し分析を行った。

健康状態や社会生活状態は衰退傾向にあり、タイプ別孤立の割合は「非孤立群」に次いで「孤立予備群」が多く、この多さが先行研究との比較において対象団地の特徴であった。「孤立予備群」は、2007 年は高年齢、主観的健康感低い、うつあり、転倒経験あり、趣味活動少ない、低世帯収入、手段的サポートの受領なし、2010 年はこれらに加え、要介護認定あり、IADL 低い、情緒的サポートの受領及び提供なしと関連がみられた。その中から多重ロジスティック回帰分析で、2007 年は主観的健康感低い、低世帯収入が抽出され、2010 年は高年齢、低世帯収入、情緒的サポートの提供なしが抽出された。

したがって、今後ますます高齢化が進行する戸建て団地において、地域保健活動の視点で孤立予防型コミュニティづくりを推進していくためには、とくに高齢者自身が情緒的サポートの提供者となり得るプログラムを開発する必要性が示唆された。

論文審査の結果の要旨

論文審査要旨：

本論文は高度経済成長期に地方の丘陵地に造成された戸建て団地における高齢者の社会的孤立とその関連要因について、2007年及び2010年に質問紙による追跡調査によって明らかにした。孤立の実態は外出頻度と近隣との交流頻度から「非孤立群」「外出狭小型非孤立群」「孤立予備群」「孤立群」の4タイプに分類された。「非孤立群」57%に次いで「孤立予備群」34%が多く、「孤立群」は2%から7%へ増加した。対象者の健康状態や社会生活状態は衰退傾向にあり、「孤立予備群」の有無を従属変数とする多重ロジスティック回帰分析では、高年齢、低世帯収入、主観的健康感の低さ、情緒的サポートなしが関連要因としてあげられた。

この「孤立予備群」は団地内部の交流よりも外部との選択的關係を維持するライフスタイルであることが推察され、「孤立群」へ移行しない対策とともに高齢者自身が情緒的サポートの提供者となり得るプログラム等を開発する必要性が示唆された。

以上の成果により、本研究は高齢化が急速に進展する団地における地域保健活動の観点から孤立予防型コミュニティづくりの方策について重要な知見を提供するものであり、博士（保健学）の学位授与に値することを認める。